

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【退職教員を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 武蔵野大学生涯学習センター

1 事業の趣旨・目的

退職教員を対象とした外国人児童に対する日本語指導者の養成を目的とする。

現在、武蔵野大学がある西東京市には西東京市多文化共生・国際交流センターを中心に7つのボランティア団体があり、9つの日本語教室を開いている。また、隣接する武蔵野市では、武蔵野市国際交流協会の日本語学習支援活動を展開している。

本事業では、官学地域連携の観点からこれらの自治体とゆるやかに連携しながら、武蔵野大学の日本語教員養成教育・日本語教育のノウハウを生かした「外国人児童に対する日本語指導者」の育成を目指した講座としていく。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席人数	議題	会議の概要
10月2日	大学 堀井研究室	4名	①最終到達目標の確認 ②ゲスト講師の確認 ③受講者への連絡 ④講座内容の確認	①外国人児童に対する日本語指導者受講生10名の養成。 ②10月14日、28日、11月4日にゲスト講師を依頼する。 ③外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発（[生活者としての外国人]に対する日本語教育事業）報告書の熟読とPC（インターネット）能力を身につけておくよう、また、受講動機の提出依頼について連絡。 ④講座の60分は日本語教育を知ってもらう。30分は小学校教育と日本語教育のコラボレーション。教授法。
11月12日	大学 堀井研究室	4名	①講座の進捗状況 ②受講者の様子	① おおむね予定通りに進んでいる。 ② 課題が大変そうだが楽しんで取り組んでいる。
1月13日	大学 堀井研究室	3名	①教材発表会について ②パワーポイントの操作指導について ③受講修了証書の準備 ④懇親会の開催について ⑤受講生地域ボランティア活動サポート資料の作成について ⑥企画委員会開催予定について	①教材発表会を2月3日（火）に実施する。1グループ発表時間は25分。各グループはレジュメA4サイズ2枚作成し、2月2日12時までに事務担当宛メール送信する。 ②教材発表のため受講生の中でパワーポイントの操作ができない方を対象に1月20日講座終了後に、操作指導を実施する。 ③出席良好者へ受講修了証書を交付する。

				④最終回の2月10日に懇親会を開催する。 ⑤地域のボランティア活動ができるよう情報提供のための資料を作成する。 ⑥次回は2月10日とする。
2月10日	三鷹サテライト教室	3名	①「外国人児童に対する日本語指導者養成講座」の今後の展開について	①受講者が今後活躍できるよう情報交換のためのメーリングリストを作成する。受講者の今後の活動拠点として多文化共生センター東京(三河島)を紹介する。 本学生涯学習センターにおいて、今年の夏休みに「外国人児童向けの日本語教室」を開講する。講座修了報告書を作成する。

【写真】(会議風景の写真)



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 「外国人児童に対する日本語指導者養成講座」
- (2) 養成講座の目標 退職教員の教員としての経験に加えて、武蔵野大学の日本語教員養成教育の知識と能力をつけて地域の生活者、とりわけ外国人児童に対する日本語教育を行う。
- (3) 受講者の総数 13人
- (4) 開催時間数(回数) 22.5時間 (15回)
- (5) 参加対象者の要件 地域の元教員
- (6) 受講者の募集方法
- 大学ホームページに募集内容掲載
 - 朝日新聞まなびのキャンパス9月4日掲載
 - 東京新聞9月9日広告掲載
 - 朝日新聞9月14日広告掲載
 - 読売新聞社多摩版に募集記事を掲載
 - FM西東京に募集の広報を依頼
 - 区・市の役所、教育委員会、図書館、文化センター等に募集チラシを郵送し広報依頼
 - 武蔵野市近隣の区・市役所、教育委員会に直接訪問し関係団体に広報を依頼。

<別添書類参照>

(7) 研修会場 武蔵野大学 生涯学習センター三鷹サテライト教室

(8) 使用した教材・リソース

○オリジナルプリント

○凡人社『日本語教育への扉』堀井恵子著

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月14日 12:30～ 14:00	多文化共生社会と日本、外国人児童に対する日本語教育の現状	武蔵野大学教授 堀井 恵子	13名
10月21日 12:30～ 14:00	外国人児童生徒の問題	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	11名
10月28日 12:30～ 14:00	外国人児童生徒に対する日本語教育の基礎知識、日本語教授法、教材作成に向けて	武蔵野大学教授 堀井 恵子	12名
11月4日 12:30～ 14:00	外国人児童生徒に対する日本語教育の基礎知識、日本語教授法、教材作成に向けて	武蔵野大学教授 堀井 恵子	12名
11月11日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	11名
11月18日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	11名
11月25日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	11名
12月2日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践、教材作成ワークショップ	武蔵野大学教授 堀井 恵子	10名
12月9日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	11名
12月16日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	9名

1月13日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践、教材作成ワークショップ	武蔵野大学教授 堀井 恵子	8名
1月20日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	西東京市多文化共生・国際交流センター理事 種村 政男	10名
1月27日 12:30～ 14:00	日本語教授法の理論と実践	山梨英和大学非常勤講師 稲谷いく子	11名
2月3日 12:30～ 14:00	教材作成プレゼンテーション	武蔵野大学教授 堀井 恵子	11名
2月10日 12:30～ 14:00	振り返りとまとめ	武蔵野大学教授 堀井 恵子	10名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

講座の最終日にアンケートを実施した。講座の内容については、4名が「大変良かった」、7名が「良かった」と答え、全員が本講座に対して満足していることがうかがえる。

講座の目的として掲げた「多文化共生社会について」、「外国人児童生徒の現状」、「日本語教育の基礎知識」については、全員が「理解が深まった」「理解できた」と答えている。また、「ワークショップ形式で教材を作ったことについて」、「プレゼンを行ったことについて」は1名の無回答者以外、全員「理解が深まった」と答えている。「今後、何らかの形でこの講座で学んだことを活用したいと考えていますか」との質問に対し、1名の無回答者以外、全員が「はい」と答えている。

<詳細別紙>

② 実施主体からの研修内容結果評価

受講生に対するアンケートから、今回の講座が講義・ワークショップ形式・プレゼンテーション・各回の宿題等々、受講者にとって内容が豊富で充実し、効果的な講座であったとの評価がなされた。一方、日本語教育について、より深い学習の必要性を感じ、1回1時間30分全15回の講座では短い、また、この講座を契機として、今後も学習を続けて行きたいと考えている受講者の記述が、目立った。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

○今年の夏休みに、本学生涯学習センターにおいて、「外国人児童を対象とした日本語教室」を開講する計画を立てている。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

○大学のある西東京市には西東京市多文化共生・国際交流センターを中心に7つのボランティア団体があり、9箇所の日本語教室を開いている。また、武蔵野市では、武蔵野市国際交流協会の日本語学習支援活動が展開されている。これらとゆるやかに連携しながら外国人児童に対する日本語指導者を育てる。

② 研修後の人材活用

○本学生涯学習センター開講予定のする、「外国人児童を対象とした日本語教室」に、講師として、今回講座に参加された方の協力を要請したいと考えている。

○ 受講者から、今回の経験をサポート現場につなげたいという強い意思表示がなされ、受講者間のネットワークを作り、情報を共有しながら相互にサポートの輪広げられるよう支援していきたいと考えている。

(12) 今後の課題

○ 受講生への継続サポート、及び修了後の人材活用を組織的かつ継続的に行う体制を確立させることが課題となる。